

要覽



NARO

農研機構 北海道農業研究センター

独立行政法人 農林・食品産業技術総合研究機構

HOKKAIDO AGRICULTURAL RESEARCH CENTER (HARC)

北海道農業研究センター紹介

■北海道農業研究センターの使命と研究推進の方向

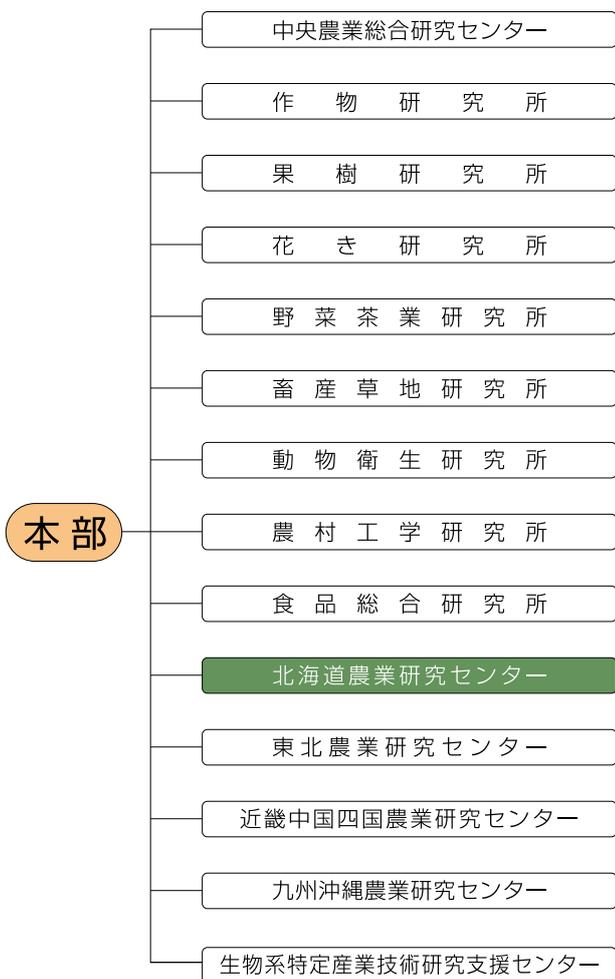
北海道農業研究センターは、寒地農業のさらなる発展により、国民の皆様に安全で安心な食料を安定的に提供するため、新しい農業技術を開発していくという使命を担っています。このため、日本最大の農業研究機関である農研機構（独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構）の一員として全国に広がる研究所間のネットワークを最大限活用し、長期的な視点に立った地球温暖化、環境保全、バイオマス、バイオテクなどの研究を手がけるとともに、新しい品種、作業技術、家畜飼養法や食品などについても先導的・基盤的研究を行い、道立総合研究機構を始めとする道内外研究機関と連携しながら現場への技術定着を進めています。

組織は、所長以下、企画管理部門、専門分野別に分かれた5つの研究領域、研究支援センターから構成され、中期計画に基づき研究を進めています。

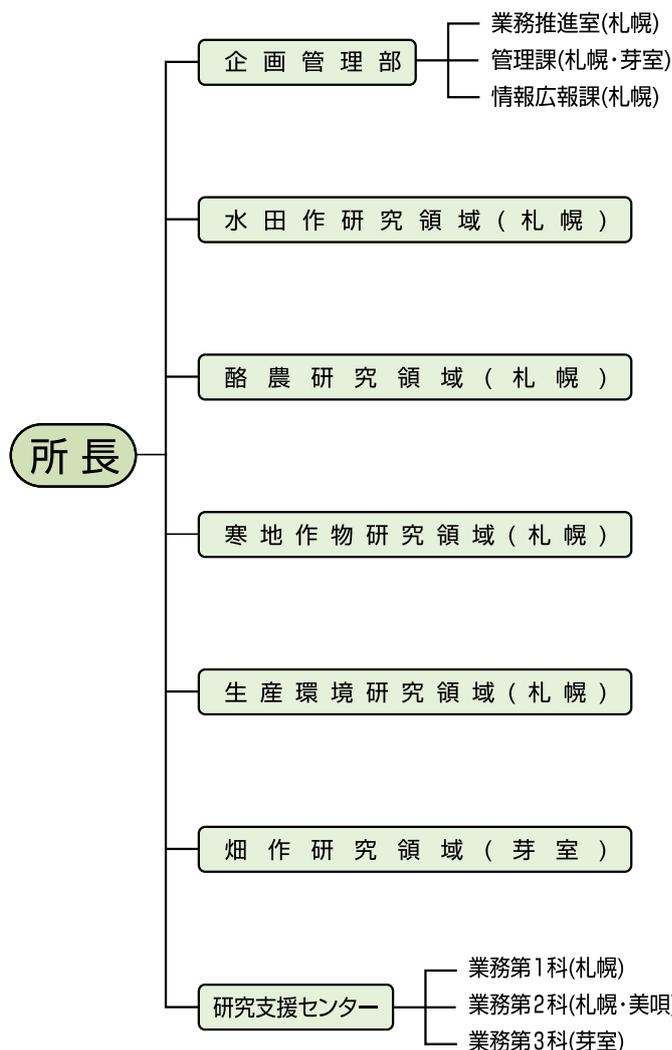
第2期中期計画期間（平成18～22年度）において、画期的なパン用小麦や病虫害抵抗性を有する新バレイショ品種、「泌乳持続性」に基づく乳牛の選抜法などを開発してきた事をさらに発展させ、第3期中期計画期間（平成23～27年度）では低温等の環境ストレスに強い農産物を作る基礎的研究、さらなる寒地向け品種開発、国産飼料の新給与法、大規模農業に不可欠なIT技術その他の研究開発を一層進めていきます。

■組織

独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構

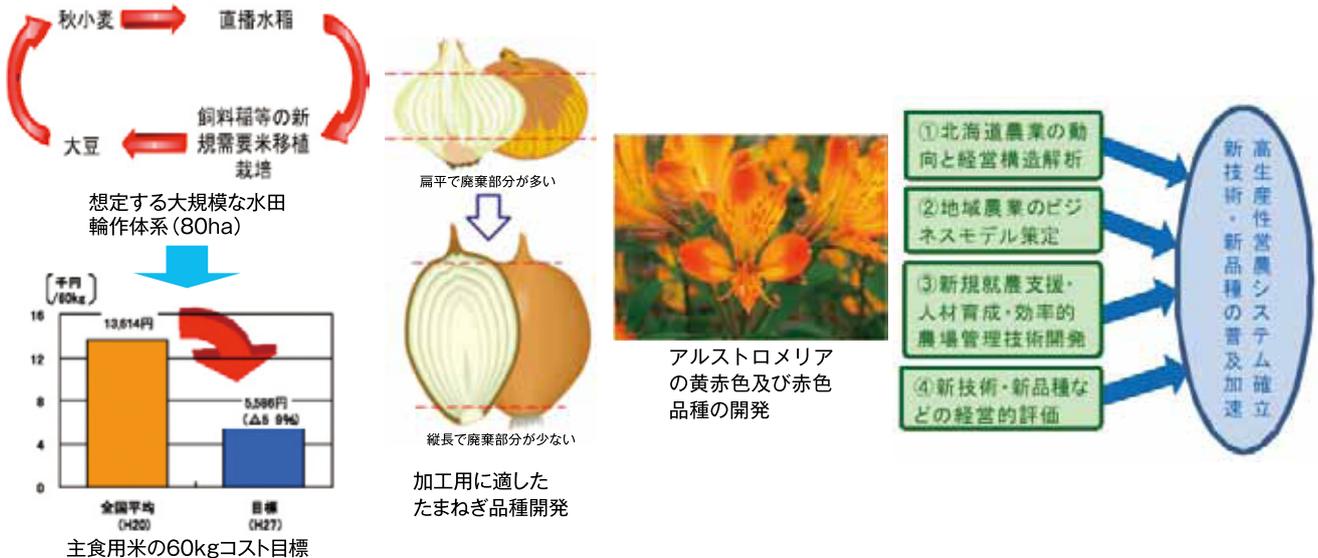


北海道農業研究センター組織図



めざす主な研究目標

- 生産コストの大幅削減を目指し、高速で作業ができる農作業機を利用した省力的な大規模水田輪作システムを確立します。
- 業務用に適した品質の露地野菜品種を開発し、国産シェアの回復を目指します。また、寒地の条件に適した品質の良い果樹や新しい色や形の花を育成します。
- 新しい技術や新品種の普及を加速させるために、新技術や新品種導入による経営改善効果の評価を行います。また、地域農業活性化のためのビジネスモデルや新規就農促進のための人材育成方を策定します。



これまでの主な研究成果

- 北海道における水稲の乾田直播栽培において、地域に広く普及している麦用グレーンドリル（播種機）などを活用する低コスト水稲直播作業体系を開発しました。
- 短節間で省力栽培ができるカボチャ品種「TC2A」及び大果で外観と食味が良好な早生の西洋なし品種「ジェイドスイート」、ブルーベリー新品種「ケラアンブルー」「エビルカブルー」を育成しました。
- 2015年の農業構造と担い手規模を予測するとともに、今後の担い手と期待される法人経営での外部参入者の確保条件を明らかにしました。



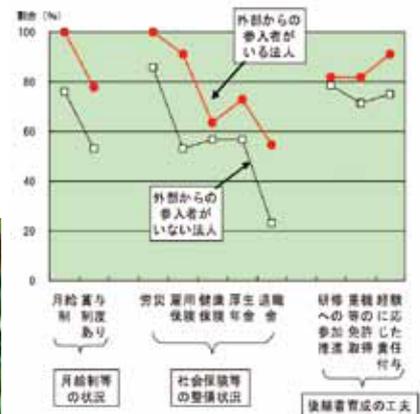
麦用ドリル+鎮圧機による低コスト水稲直播作業体系



短節間で省力栽培が可能なカボチャ「TC2A」



大果で外観と食味が良好な西洋なし「ジェイドスイート」



法人経営における外部参入者の確保条件

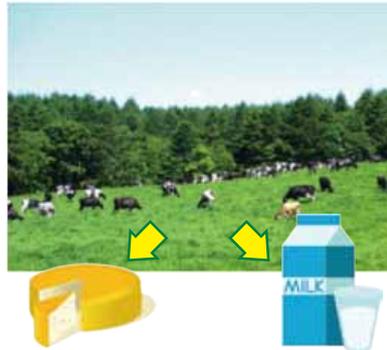
めざす主な研究目標

- 耕種農家と畜産農家が協力して、家畜排泄物などの資源を循環利用し、環境への影響が少なく、低コストで栄養価の高い自給飼料を生産利用する酪農経営をめざします。
- 放牧などで草地を最大限に活用した酪農による低コストで高品質な牛乳・乳製品の生産をめざします。
- 乳牛の生産能力を改良して健康で飼いやすい牛群による酪農経営をめざします。
- 寒さや病気に強く、サイレージ品質や混播適性の高い牧草やトウモロコシ品種を育成します。
- 飼料作物生産と両立可能な資源作物や家畜排泄物を有効利用したバイオマス生産技術の開発をめざします。

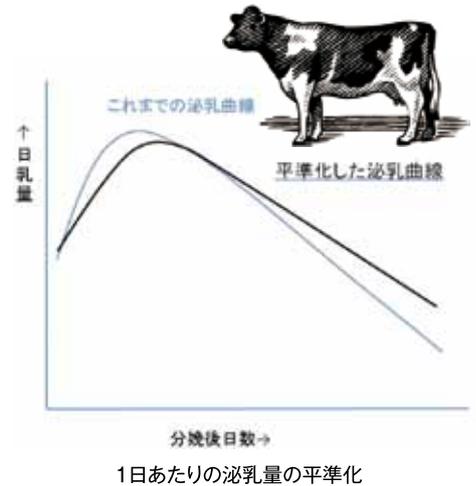


トウモロコシ新品種を育成し、
「アイコーン」※1サイレージとして給与

草地の有効活用で輸入飼料を
減らし低コスト化



さらに高品質な
乳・乳製品



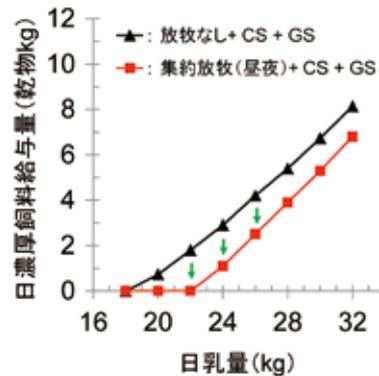
※1「アイコーン」とは、左上写真のように、トウモロコシの皮・実・芯を合わせた部分です。

これまでの主な研究成果

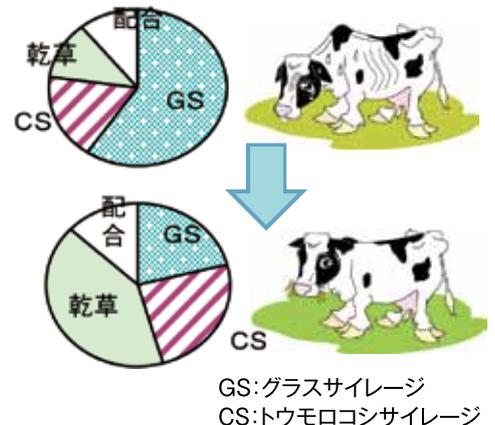
- 栽培可能地域を拡大できるサイレージ用トウモロコシや、集約放牧に適したメドウフェスク、シロクロバ等の新品種を育成しました。
- 濃厚飼料費の低減に向けトウモロコシサイレージを併給する集約放牧技術※2を開発しました。
- 乳牛の分娩後のケトーシス※3発症低減に向け乾乳後期にグラスサイレージを制限して乾草を多給する技術を開発しました。



草地酪農地帯で栽培可能な
トウモロコシ「たちびりか」



集約放牧による濃厚飼料費削減



分娩後の搾乳牛を健康に
管理するための飼料給与法

※2「集約放牧」とは、牧草地を小さく区切って、良い状態の牧草を順番に牛に食べさせることで生産性を高める放牧方法です。

※3「ケトーシス」とは、分娩前後の乳牛がエネルギー不足などから体調不良になることです。

めざす主な研究目標

- 米粉パンや外食産業などの新しい用途に適した品質や、耐病性、耐冷性、直播適性にすぐれた水稻の品種を育成します。
- 米のでん粉などの性質を活かした新たな米粉利用技術を開発します。
- 多収で栽培に手間のかからない飼料用の水稻品種を育成します。
- 水稻の耐冷性、コムギの越冬性やダイズ耐冷性の仕組みを明らかにして、関連する有用な遺伝子を利用するための技術や品種改良のための素材を開発します。



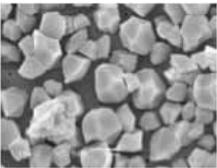
病気や冷害に強い品種



飼料用の品種



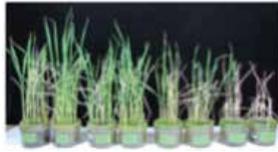
外食産業向けの低価格で美味しいお米の品種



でん粉の新たな利用技術の開発
(でん粉粒の電子顕微鏡写真)



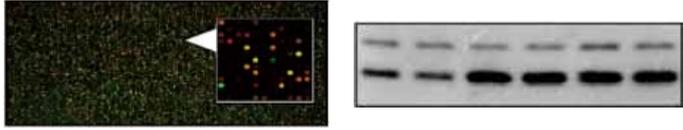
米粉パンなどの新規用途向け品種



水稻の耐冷性の品種間差



コムギの越冬性の品種間差



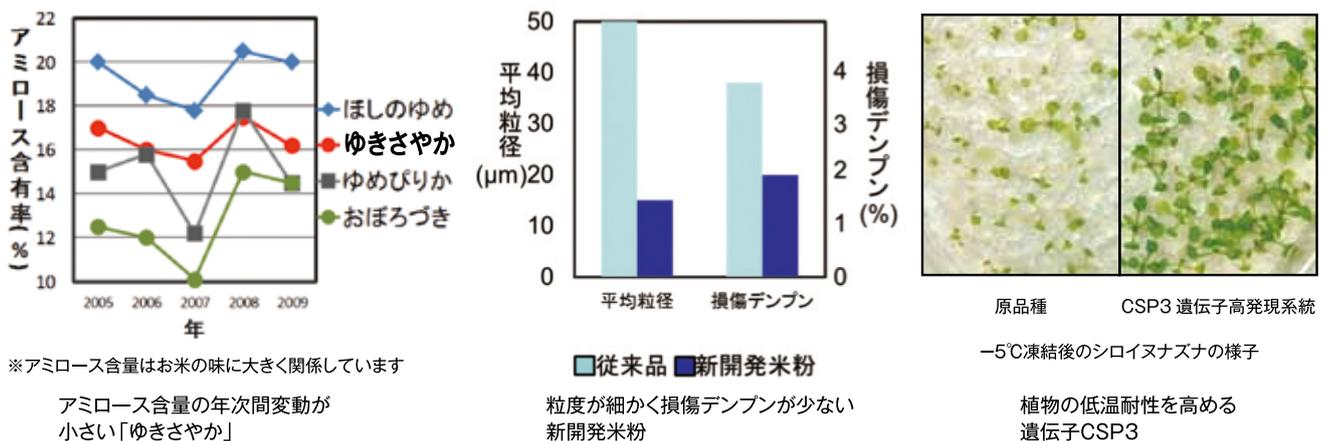
耐冷性や越冬性関連遺伝子の発現解析



分子マーカーや遺伝子組換え技術の利用による素材の開発

これまでの主な研究成果

- 食味の年次変動が小さい新タイプ的水稻品種「ゆきさやか」を育成しました。
- 粒度が細かく損傷デンプンが少ない上質の米粉を低コストで製造する技術を開発しました。
- 植物を寒さに強くする遺伝子 (CSP3遺伝子) を発見しました。



めざす主な研究目標

- 気象災害の軽減対応の情報を提供する早期警戒システムを開発します。
- 気候変動や温暖化を緩和するとともに、適応していくための栽培技術を開発します。
- 作物の根圏土壌に生息する微生物の働きを利用した循環型農業をつくります。
- 土壌病原菌やセンチュウ類による作物被害を防ぐ技術を開発します。
- 天敵が生息、活動しやすい環境を作る圃場管理方法を開発します。

早期警戒システム



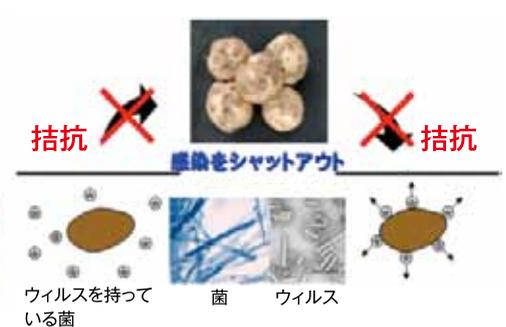
早期警戒システムで、冷害・猛暑・病害虫を予測して、何をしたらよいかをすばやく発信します。

循環型農業



根圏土壌で微生物、植物の機能を活用して、物質循環を進めます。

生物機能を利用した病害虫防除

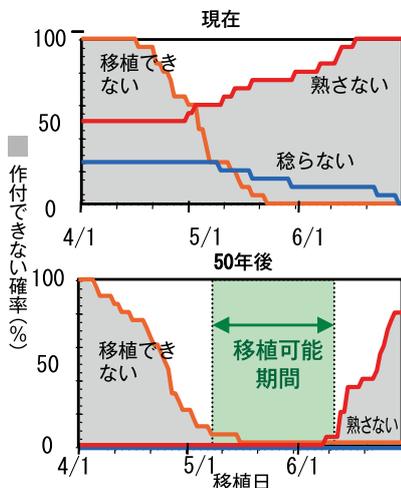


拮抗菌などの生物機能を使って、ジャガイモ等の土壌病原菌やセンチュウの感染をシャットアウトします。

これまでの主な研究成果

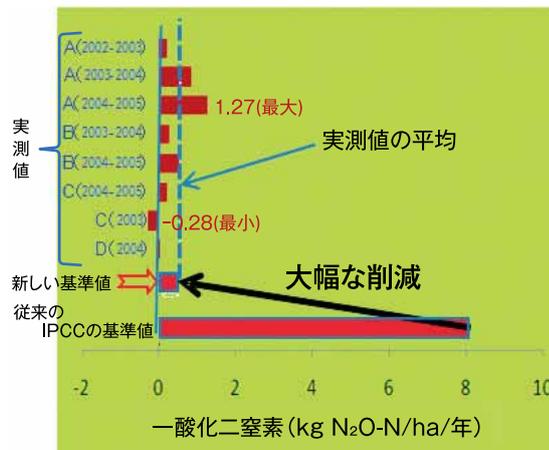
- 北海道が温暖化していく中で、将来どのような品種のイネをいつ植えたら良いか予測しました。
- 温室効果ガス発生量を精密に計測し、泥炭土壌のN₂O発生量の基準値を明らかにしました。
- 目に見えない土壌中のセンチュウを簡単に高精度で見つけ出す簡易な方法を開発しました。

温暖化の予測



東北地方の品種「あきたこまち」は、今は北海道(空知)では作れませんが、50年後は気温が2.5℃上がって作付できると予想しています。

温室効果ガスの発生量



北海道の泥炭土水田の耕起で放出されるN₂Oの発生量が明らかとなり、新しい基準値として採用されました。

センチュウのカップ検診法



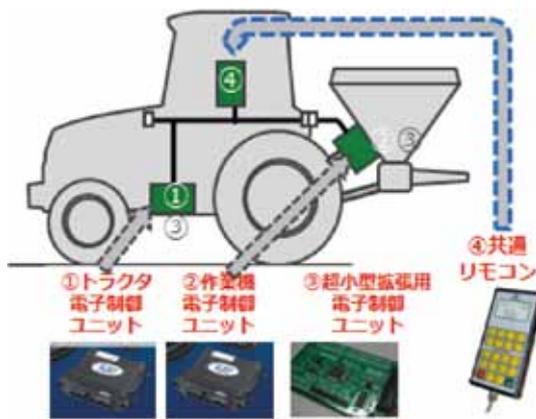
ジャガイモの「シストセンチュウ」の発生と密度が一目でわかります。

めざす主な研究目標

- 業務・加工用タマネギの導入による50ha規模の畑輪作技術体系の確立を目指します。
- 化学農薬に頼らない病害防除技術、温暖化を緩和できる畑地の管理技術を開発します。
- 大規模畑作経営における栽培管理や作業効率改善のための情報収集・活用技術を開発します。
- 海外に対抗できる品種開発や貯蔵技術開発などによる国産加工原料用バレイショの周年供給技術を確立します。
- 中華麺に適した品質の小麦や機能性成分のルチンが多く味の良いダツタンソバ等の品種を開発します。



大規模畑作への加工用タマネギ導入



作業状況や施肥量などの情報を簡便に取得できるようにして栽培管理等に活用



早期収穫でき高品質なポテトチップ用品種の開発

これまでの主な研究成果

- 超強力（ちょうきょうりき）秋播き小麦品種「ゆめちから」を育成しました。中力粉とのブレンドにより、非常においしいパンをつくることができます。
- 綺麗な白肉で、食味が良く、サラダ、コロッケなど様々な食品に使えるばれいしょ「はるか」を育成しました。
- 生物防除微生物（*Pythium oligandrum* : PO）によるトマト青枯病抑制効果を解明し、PO製剤を開発しました。
- 土壤炭素動態モデルを用いて十勝地域の土壤炭素貯留量の将来予測を行いました。土壤炭素の貯留量を減らして土壤からのCO₂の排出を増やさないようにするためには、収穫残さや緑肥栽培の適切な利用が重要であることが分かりました。



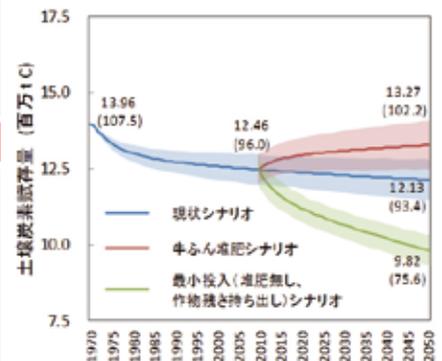
超強力「ゆめちから」



多彩に使える「はるか」



PO菌によりトマト茎内に青枯病菌が侵入できない



畑地土壤炭素貯留量の将来予測

企画管理部

業務推進室

研究の企画、研究課題の管理・評価、産学官連携、地域推進会議、予算の立案・管理、行政機関対応、機構本部対応など研究業務の推進と支援を行っています。

企画チーム

研究企画、研究課題の管理、研究課題の評価、競争的資金、国内外の研究交流、安全関連施策、幹部会・地域推進会議の企画・運営を行っています。

運営チーム

予算の執行管理、受託研究、委託研究、産学官連携知的財産、研究成果の管理・運営を行っています。

管理課

庶務厚生、労務・職員管理、会計、審査、調達、資産管理に関する業務を行っています。

庶務チーム

庶務、厚生、労務管理、人事管理に関する業務を行っています。

会計チーム

会計、審査、契約、資産管理に関する業務を行っています。

芽室管理チーム

芽室研究拠点における庶務、会計に関する業務を行っています。

情報広報課

広報活動、ウェブ・ネットワーク対応、イベント対応、図書管理、各種問い合わせに関する業務を行っています。

情報管理係

図書管理に関する業務を行っています。

広報係

広報活動、ウェブ・ネットワーク対応、イベント対応、見学対応、各種問い合わせに関する業務を行っています。

研究支援センター

研究推進上不可欠な家畜の飼養やほ場での作物栽培、研究データとりまとめのための各種作業等について、農業試験研究特有の手法により実施するとともに、研究部門で作り出される新規作物、新しい農業技術をほ場で実証する等の業務を担当しています。

業務 第1科 (札幌)

乳牛の泌乳曲線平準化による省力技術、草地の高度利用による乳製品の高付加価値化、自給濃厚飼料イアコーンの生産利用等の分野を担当しています。



泌乳牛を供試した給餌試験

業務 第2科 (札幌・美唄)

飼料米や米粉等の加工・業務用水稲、生物機能を活用した養分吸収や病害防除、歩留まりの高いタマネギ品種、気象変動に対応した早期警戒システム等の分野を担当しています。



タマネギ育種のための栽培試験

業務 第3科 (芽室)

加工用タマネギ等の野菜を入れた輪作体系、周年供給できるバレイショ品種、パン・中華麺等の用途別小麦品種、IT利用による大規模農業基盤技術等の分野を担当しています。



バレイショの品種別収量調査

沿革

- 1901(明34)：農商務省北海道農事試験場を札幌農学校附属第2農場の一部に設置
1906(明39)：農商務省月寒種牛場を札幌郡豊平村大字月寒村1番地に設置
1908(明41)：農商務省月寒種畜牧場に改称
1916(大5)：農商務省月寒種畜牧場を廃止し、農商務省畜産試験場北海道支場を設置
1919(大8)：農商務省畜産試験場北海道支場内に月寒種羊場を併置
1925(大14)：農林省月寒種羊場に改称、北海道農事試験場本場(琴似)新庁舎竣工
1931(昭6)：農林省種羊場に改称
1942(昭17)：北海道農事試験場・北海道庁種畜場・北海道庁種羊場を併合し、北海道農業試験場を設置
1946(昭21)：農林省種羊場を廃止し、農林省月寒種畜牧場を設置
1949(昭24)：農林省月寒種畜牧場を廃止し、跡地等が北海道農業試験場に移管され、月寒試験地に改編
1950(昭25)：北海道農業試験場(国立)と北海道立農業試験場に分離
1959(昭34)：農林省北海道農業試験場畑作部を芽室に設置
1966(昭41)：農林省北海道農業試験場本場が琴似より現在地(羊ヶ丘)に移転
2001(平13)：独立行政法人 農業技術研究機構 北海道農業研究センターに再編
2003(平15)：独立行政法人 農業・生物系特定産業技術研究機構 北海道農業研究センターに改組
2006(平18)：独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 北海道農業研究センターに改組

職員数

指 定 職	1名
一 般 職	43名
技 術 専 門 職	68名
研 究 職	140名
合 計	252名

用地

所在地	建物敷地	畑	水 田	採草放牧地	山林その他	合 計
羊ヶ丘	34.4	190.7	6.5	150.7	440.7	823.0
芽室研究拠点	10.1	89.5	—	—	3.1	102.7
美唄試験地	0.9	2.3	1.7	—	50.1	55.0

単位：ha

動物頭数

乳 牛	88頭
肉 牛	24頭
めん羊	75頭

(職員数、用地、動物頭数は、平成25年3月現在)

札幌



〒062-8555 札幌市豊平区羊ヶ丘1番地
TEL.011-851-9141(代表)

アクセス

★札幌駅 地下鉄東豊線 13分 → 福住駅 中央バス 4分
→ 月寒東1条19丁目 徒歩 15分 → 北海道農業研究センター

★千歳空港 中央バス・北都交通 48分 → 月寒東1条19丁目 徒歩 15分
→ 北海道農業研究センター

芽室研究拠点



〒082-0081 河西郡芽室町新生南9-4
TEL.0155-62-2721(代表)

アクセス

★とちかち帯広空港 25km 十勝バス 40分 → 帯広駅 13.6km JR 20分
→ 芽室駅 4.5km 車 10分 → 芽室研究拠点

美唄試験地

〒072-0045 美唄市開発町南



お問い合わせ _____

企画管理部 情報広報課 TEL(011)857-9260

<http://www.naro.affrc.go.jp/harc/index.html>

